

博士學位論文要約

論文題目： 中国人留学生における親密圏の変容

氏名： 李文

要約：

現在の中国人留学生が抱える問題の解明には、従来のような異文化適応の視点だけでは不十分であり、彼らのパーソナル・ネットワークを分析の中心に据える必要がある。そして、デジタル世代の(主に 2010 年代以降日本にいる第三世代の)中国人留学生を対象に分析する場合、彼らの親密圏を構成する「家族」と「中国人友人」そして「日本人友人」とのネットワークは、以前と比べてその構造を大きく変化させている。本研究の目的は、そのような中国人留学生の親密圏の変容を実証的に明らかにすることである(序章)。

第 2 章では、1990 年代の元中国人留学生と 2010 年代以降の中国人留学生を対象とした半構造化インタビュー調査Ⅰ・Ⅱにもとづく分析によって、まず第二世代と第三世代の中国人留学生の親密圏の概要を把握した。連絡頻度やサポートネットワークの重要性からみると、1990 年代の第二世代の元中国人留学生が親密圏の中心を日本人友人とのネットワークにおき、「生活圏中心」の親密圏を構成していたことがわかった。それに対して、第三世代の中国人留学生は、母国の SNS である微信を頻繁に利用することによって、母国の家族や友人さらには日本にいる中国人友人と積極的に連絡をとる反面、日本人社会に溶け込みにくくなる傾向がみられる。彼らが中国語 SNS を利用できるようになったことで成立した「自文化圏中心」の親密圏は、彼らの日本人との友人形成や異文化コミュニケーションの壁になっていることが示された。

第 3 章では、なぜ中国人留学生が日本人学生と友人となりにくいのかについて、中国人留学生を対象としたインタビュー調査Ⅲと、日本人学生を対象としたインタビュー調査Ⅳを通して分析をさらに深めた。中国人留学生へのインタビューによれば、まず日本人学生と交友を深める機会が少ないこと、日本人の集団主義による排他性、日本人とコミュニケーションをするハードルが高いこと、日中の社交文化の違い、日本人の外国人留学生に対する消極的な態度や「欧米志向」などが挙げられた。日本人学生に対するインタビューの結果からも、中国人留学生が感じている交友の難点が概ね確認された。

第 4 章では、日中学生を対象としたインタビュー調査Ⅲ・Ⅳ、アンケート調査Ⅲ・Ⅳの結果を分析した。中国人留学生が日本人の中国に対する否定的なナショナリズム意識に遭遇し、自分のナショナリズム意識も強まったこと、他方、日本人学生がもつ中国への否定的なナショナリズム意識は、主に日本のマスコミによるネガティブな報道によるものであることが明らかとなった。量的アプローチからは、日本人学生が中国人と友人になろうとする意欲は、彼らの政治的背景である中国・中国人に対するイメージ、彼らの身近な経験である中国人留学生の友人の数と中国人留学生に対するイメージ、そして彼らのグローバ

ル度を反映する英語の能力に影響されることがわかった。

以上、第一部全体の分析結果から明らかになったことは、中国人留学生と日本人学生の間には社交文化の違い等があるものの、そのような意識の隔たりは互いの生活環境の変化やメディアのあり方に大きな影響を受けており、必ずしも異文化適応の問題ではないということである。

そこで第二部では意識よりも関係に焦点をあてて、中国人留学生のパーソナル・ネットワークを中心に分析し、より構造的な変容を分析することで問題の原因を解明する。

第5章では、中国人留学生に対するインタビュー調査Ⅱによって、彼らが主に微信を利用することから中国人友人とのネットワークに偏りがちになると、異文化コミュニケーションを十分にできず、留学の本来の目的を達成できない不満につながっていることがわかった。

次にアンケート調査Ⅰによれば、中国にいる家族や中国人友人が彼らの精神的サポートとして重要な役割を果たす一方、「日本人」に対するイメージが「日本」より比較的低く、中国人留学生が日本人と親密なネットワークを形成し異文化コミュニケーションを行なうことに困難を感じていることが裏付けられた。

またアンケート調査Ⅲで友人ネットワークを調査したところ、日本人友人との連絡頻度が最も低いという結果が出た。しかし「日本人友人との連絡の頻度」が高ければ高いほど、「日本人とのコミュニケーションに対する満足感」が高い傾向も分かった。日本人友人を中心とした「生活圏中心」の親密圏を併せもつことによって、中国人留学生の日本社会への適応にポジティブな影響を与えることが計量分析でも明らかになった。それとは対照的に、「母国の友人との連絡頻度」が高ければ高いほど「日本人とのコミュニケーションに対する満足感」が低くなった。日本人友人から離れた「自文化圏中心」の親密圏が優勢になると、中国人留学生の日本社会への異文化適応にネガティブな影響を与えることがわかった。

第6章では、アンケート調査Ⅲにおける SNS 利用の分析を通して、中国人留学生にとっての「磁場」である中国語 SNS の微信が、母国にいる家族や中国人友人と情報共有・交換そして連絡を便利にする一方、日本人友人とのコミュニケーションにネガティブな影響を及ぼす壁になっていることがわかった。中国人留学生が微信を中心に利用することで家族や中国人友人の「自文化中心」の親密圏ができあがっていること(SNS 社会での日本人離れ)が再確認できた。

第7章では、アンケート調査Ⅲから中国人留学生が微信を最もよく使う理由は、親と連絡するためであることがまず示される。彼らは、海外にいても中国の家族と頻繁にコミュニケーションをとり、家族と同じ価値観をもつことが求められる。留学生にとって親や家族は大切なサポート・ネットワークであると同時に、彼らに大きな期待を寄せ、プレッシャーを感じさせているようである。また高学歴な親ほど子どもの就職にも強い影響をおよぼしている。

インタビュー調査Ⅰの分析によっても、中国にいる家族は留学生の最も重要な準拠集団として強い規範を押し付け、「進学・恋愛・結婚・出産」という人生の大事なイベントにおいて親の意思に従わせている実態がわかった。中国人留学生は、家族の養老問題について

も強い責任感をもつことが求められ、留学中の勉学に十分に専念できない。このように、中国における共同体としての家族が、留学生の自文化中心の親密圏をさらに強化していることが明らかになった。

終章では、中国社会の大きな変動や中国語 SNS の拡大が中国人留学生の親密圏の変容を促し、異文化コミュニケーションにマイナスの影響を与えていることを理解して、留学生を受け入れる日本の大学に、交友や異文化適応のネットワークの磁場としてのはたらきを強化する政策が求められることを提案した。